

令和5年度 第2回 田尻町一貫教育審議会 議事録

1 開会及び閉会の年月日時及び場所

開 会	令和5年10月3日（火）午前10時00分
閉 会	令和5年10月3日（火）午後12時00分
場 所	田尻町教育センター 2階 一般教室（大阪側）

2 会議に出席した者の職及び氏名

委員	二宮 衆一委員、田口 春加委員、妹尾 晃典委員、森下 かおり委員、 中村 まき子委員、池本 勝利委員、織田 容子委員、明貝 一平委員、 西阪 純也委員、栃木 孝正委員、田津原 淳委員
事務局職員	馬野教育長、米良教育部長、伊賀教育管理課長、澤谷一貫教育推進課長 西文化・教育施設建設プロジェクトチーム課長、水上一貫教育推進課参事、 水野一貫教育推進課主幹

3 案件

①会長あいさつ

二宮会長より、開会のあいさつを頂戴しました。

②報告事項

事務局より「愛知県海部郡飛島村立飛島学園視察」について報告しました。

報告後、各委員より頂戴した質問・意見については下記のとおりです。

(委 員) ふれあいホールのランチルームは400名収容できるとなっていますが、基本的に毎日ここで全員が給食を食べているのですか。

(事務局) コロナが拡大している時は中止していたが、基本的には全員が一堂に会して給食を食べています。

(委 員) 1階と2階で1年生から9年生までが普通に交わっている感じなんですか。

(事務局) 1年生から4年生は仲よし広場を挟んで向かい合う配置で、仲よし広場に子どもたちが自由に出入れますのでここで交流も生まれています。2階の部分は5年生から9年生の教室が配置され、オープンスペース等で交流が行われています。一番はメディアセンターが交流の場所になっています。

(委 員) 子どもたちにとって学ぶ空間というのはとっても集中した空間であるべきだし、状況次第では部屋が真っ暗になることも必要だし、外の音も遮断されることも必要です。例えば窓が全面ガラス張りでもボタン1つでカーテンやブラインドが降りてくるなどの工夫が必要だと思います。他にも大人数で学ぶのが苦手な子どもにとっては小さな部屋をたくさん用意するなど、子どもの視点に立った環境っていうのはまだまだ考えられるのかなと思うので、どんどん取り入れて最新の校舎にしていきたいなと思います。

(委 員) 飛島村の小学校を实际使ってみて、ここはちょっと使い勝手が悪かったかなとかここはこうしておけばよかったかなというようなことは何かありましたか。

(事務局) 教室とオープンスペースが連続した形で使用できるよう、可動式の棚になっているが、5～9年生の扉はすべて締め切ることができないので、音が漏れてきたり集中がしにくかったりする環境なのが改善点だと聞いています。

- (委員) 資料を見ると、東海地震にかかる防災対策強化地域に指定されており、元々ここに校舎があったのではなくて、市街地の方にあったのかなと想定されます。また、この大きさの規模のものを田尻に落とし込めるかという点で考えると現実問題難しいように思います。そのあたりの経過をもう少し詳しく説明してほしいです。
- (事務局) 東海地震にかかる地震防災対策強化地域となったのが平成 14 年で、その後合併の話等も出たみたいなのですが、8割近くの反対で決議がなされます。その後、学校の施設整備に移っていきます。その中で学校施設と検討委員会を翌年平成 15 年に設置しまして、耐震や改築とか一貫教育についても様々な諮問をされながら一貫校建設というのが決定いたしました。
- (委員) 理想的な施設ですが、これを田尻町には入れられないと思います。実際に視察に行つて、ここは少し省けるのではないかとこのころがあれば教えてください。
- (事務局) 飛鳥学園の運動場が本町の計画地程度の規模になっています。正直、ここまで広くなくてもいいのかなと思っています。200mトラック以外にも野球やサッカーができる広さになっているが、本町の場合シーサイドドームや潮風グラウンドの活用を行うことで補えると考えています。
- (委員) 小中学校にエンゼルも入れるということですよ。
- (事務局) 0 歳から 15 歳の一貫教育をよりよい形ですすめていくためには、施設も一体化の方がより効果的だと考えています。
- (委員) そうなると現実問題どのスペースにどのように一体化するのがわからないし、上に積み上げていくことはできるのですが、園庭も必要でしょうし、お昼寝時に小中学生の声が邪魔になることもあると思います。
- (事務局) 配置はまだ決まっていません。0 歳から 15 歳の一貫教育を行っていくという理念を定めまして、そこについてご理解をいただけたら、それがよりよい形で実現できる施設を、来年度からの基本計画でまとめていきます。今おっしゃったような懸念は最もですので、しっかりと検討していきたいと思っています。
- (委員) 0 歳から 15 歳が 1 つの施設内にいるということは大きな教育的な意義があると思います。その中で取捨選択することも必要になってくると思いますので、教育的な意義と現実との兼ね合いを行いながら慎重に議論をしていただきたいです。
- (委員) 大変すばらしい基本方針・理念だと思います。計画地の特性も大変すばらしいと思います。しかし、実際の計画地がその方針にあっていないように思ってしまうので、そう考えると基本方針を見直すこともありなのかなと思います。そのあたりはどうでしょうか。
- (事務局) 0 歳から 15 歳までの一貫教育を大切にしていきたいというのはブレずに進めていきたいと思っています。その中で、どこまで実現できるのか反映できるのかは現時点ではわからないでいます。今後の専門家の意見もいただきながら理想的な環境となるよう進めていきたいと考えています。

③議題

事務局より「田尻町一貫教育施設整備基本構想」について説明しました。

説明後、各委員より頂戴した質問・意見については下記のとおりです。

- (委員) 基本方針については何の異論もありませんので、しっかりと押し進めていただきたいです。これまでたくさん視察に行っていると思いますが、時間の許す限りたくさん視察に行つてほしいと思います。想像力は移動距離に比例すると言われていています。そして、その視察には学校園の先生方も一緒

に行ってほしいと思います。実際に使うのは先生方であり、見ながらしっかりとイメージを膨らませてほしいです。そして、何より設計士の力も重要になってくるでしょう。こちらの理想・要望をどこまで実現できるのかはプロの力が重要だと思いますので、この限られた敷地を最大限に活用してほしいと思います。社会教育の立場としては、私たちがどれだけ地域の人を巻き込んでできるかということが重要であって、建物に関しては先生方が1番いいというものにしてもらえればと思っています。施設について少し意見もあります。昔は1つの教室に子どもたちが大勢入り、教育が行われてきました。障がいのある子もいたし、いろいろな子と一緒にすごしながら学んできたと思います。少人数で学習することはいいと思うが、それ以外のところはしっかり交わるような学校にしてほしいです。やはり税金は教育に使うべきです。「国家百年の計は教育にあり」というように、せっかく造るのだからどこもまねできないような最先端のものにしてほしいです。

(委員) 今後の検討事項で校地の拡大というところがあると思うんですけども、現段階この基本構想を考えているということで、引き続き視察に行っていたいろいろないいものが出てくると思いますので、今の基本構想をぜひとも実現していただきたいなと思っています。ただそのさっきもおっしゃっていたもうここで建てることと決まっている中での議論はどうしてもちょっと後ろ向きになってしまいます。敷地が狭いから無理だろうとなっちゃいますので、ぜひともこの校地拡大や建築士さんを入れて一緒になってこの基本構想を考えていった方が前向きな話し合いができると思っています。例えばお店をする時に、この敷地でお店をするってなったら、どう考えても10席しか無理やなってなると10席分の構想しかできないわけですよね。お店としては本当やったらこんなお店にしたいってまず考えた上で、その構想に見合った敷地を選んだりとか席数を選んだりとか立地を選んだりとかすると思うんですが、先に立地がもう決まってるっていう所をしっかりと考えて、建築士さんを入れて議論するなど柔軟に僕たちも考えられるようにしていただきたいなと思っています。

(委員) 一貫教育については基本的に他の委員の皆さんも賛成かなと思っています。どの程度のものをしていくかっていうのが今後の課題だと思いますね。飛鳥村の例とか他にもいろいろな例があってそれを田尻版にどうアレンジしていくかということも大きな課題になっているという認識なんですけど、田尻の特色をいかに有効に一貫教育に盛り込んでいくかということが難しいところだと思うんですね。特色を考えた場合に、この基本構想にあるように学校を中心としていろいろな施設が周りであってというのが一つの特色かなと私は思っています。公共施設なりいろいろな施設が周りに点在していて、これは昨年1回目の計画地の時にもそのメリットを十分に生かそうという発想で現地建て替えということに落ち着いたと思います。この田尻町の特色を前面に出した基本構想の理念みたいなものも前面に打ち出しても私はいいいと思っています。同じように作るわけにはいかないというのは誰が見てもわかると思うんですけど、似たようなものを作りたいではあんまり特色も出ないと思っています。ハードの整備も確かに重要なんですけど、できた後のソフトが重要だと思っています。徒歩で行ける距離感で非常にコンパクトに集まっているというのが特色であって、それを前面に出した良い環境教育の施設づくりというのができないかなと思っています。これが柱になるかと思っています。基本構想の裏面の左下に地域の活性化っていうところに書いているに地域づくりの好循環を生み出すというのが心に刺さりました。これこそ田尻はできやすい地盤ですし、田尻町のメリットではないかと思っています。

(委員) 地域の活性化4番この右上の地域 コミュニティと連携する施設整備こちら辺に関わってくると思うんですけど、ソフトはこの後のコミュニティスクール CSにかかってくると思います。コミュニ

ティスクールを目指すというのも僕はもう 20 年前の一般質問の初日ぐらいに CS 目指そうやということを書いてきましたが、20 年たってそういう方向にしてくれたのは嬉しいです。大阪府内では学校と地域との連携が取れているという評価をもらい、大阪府教育委員会に聞いてくれても多分一番でしょうと言ってくれるぐらいやっぱり土壌があります。いろんな人が入ってくるという形は非常に大阪府内でも進んでいるところで、それができるこの小さな町の物理的な小ささと古くから顔と名前の一致する関係づくりがやっぱり他に比べてほんの数パーセントけども高いだけでこんなに目置かれるところになってると思います。そのあたりは基本ソフト面の CS の部分が大きくなると思うんですけども、その施設の中にも地域の人が交われる関われる仕掛けをどんどん行ってほしいなと思います。飛島にもコミュニティゾーンがありますが、施設の割には薄いなという気がしました。豊中の学校では公民分館として生まれた余裕教室も作られていて、そういうコミュニティスペースをしっかりと作って欲しいなと思います。最終段階のちょっとしたスペースでいいのでお願いします。とりあえずいろんなところを見に行ってもらって先生らも使いやすくて将来を見据えたそれこそグローバルな施設にしてほしいです。

(委員) 一貫校を作っていくという話が何年か前に出た時から私自身は常に 0 歳から 15 歳っていうことにこだわってます。田尻町で小さな町なので敷地も狭いですけども、その真ん中に 0 歳から 15 歳の子どもたちを集めて教育施設を作ることが大切です。ちょっと大きなことを言うと、今建て替えた学校は 50 年 60 年先までずっと続くわけで、その時代にはもう私たちはいませんよね。その時の人たちが、その時にこの施設作って良かったなあって思えるために何ができるかを考える必要があると思います。ちょっと引いて考えてみると、絶対大事にしたいのはまずきれいであること。綺麗であることというのは掃除もしやすいとか、綺麗な施設を維持していけるなどです。それから温もりがあること。例えば飛島の動画見ても木目調なのはよかったです。それから広いということ。広いというのは広大なグラウンドがいるって言うわけではなくて私たち学校現場で働いてたら廊下狭いよね、教室狭いよね、机のこの面だってもうちよっと広がったらいよねってみんな思ってます。いろんなものを使い勝手よくして、最新の技術を入れて欲しいです。例えばトイレもですね、和式ばかりだったのは本当にあの 10 年ぐらい前から洋式がどんどん増えてきています。熊取町の小学校に校長会で行ったりするんですけどもう中へ入ったら感知して電気がついたりトイレを使ったら自動で流れたりとかそんな風になっています。最後にちょっと結論になるんですけどエンゼルも入って 0 歳から 15 歳の一貫教育を実現するためには敷地を広げる努力は絶対必要だと思います。それをなしにこの広さで作って 50 年後にうーんとなるのが残念なのでどこまで広げられるかわかりませんが敷地を広げてエンゼルの園庭、それからできたらビオトープそういったものも作れるような場所も作りながら新しい田尻学園というようなそういったものができたらいいなと思っています。

(委員) この基本方針基本構想を読ませていただいて感じるのは、やっぱり人との幅広い関わりというところがものすごく大事になっているということです。そうすると、先ほどの飛島みたいな学校よりも日常的に必ず人が関わらないでおられないような作り方をする必要あるんだろうなと思います。この構想を実現しようと思ったら、学期に 1 回交流しましょうとかそういうことではきっとないんだろうなと思うんですね。そうすると難しいのかもしれないですけどその校舎の中に地域の施設が入ってるというような思い切ったことも必要だろうし、あと中学生と幼児の子が同じトイレ使ってるみたいなそういうことも必要だろうし、そういう風にこの構想を読んだらそういうなんか思い切った施設づくりっていうのが必要なんだろうなっていうのをすごく感じました。それが実

現できるのかは分からないですけども、本当に日常的に関われる施設作りっていうのをぜひともこの構想を実現するためにはしてほしいなっていうのすごく感じました。また別の話になるんですけども最初に子供たちが勉強できる空間は集中できる環境が必要だっていう話があったと思うんですけども、この社会状況の変化に対応する教育環境の整備っていうところでアクティブ・ラーニングという話が出たと思います。私はアクティブ・ラーニングというのはやや流行りものというか本当に子供たちがアクティブ・ラーニングして勉強楽しくなって学ぶ意欲増えてるのかって言ったら現実ちょっと違うのかなっていう風に思うんですね。学習内容自体そんなに20年前とかと変わってないですし受験のシステムも変わってないのにその表面のコーティングだけ変えようと文科省はしてるようにどうしても見えてしまうんです。そうなった時に教室を可変できるようにしましょうとなり、その結果音漏れして集中できませんみたいなことが起こるのかなと思うんです。そうなってきたら勉強できる空間はきちんと集中できる空間にして、それとは別にさっきの音楽室はもうガラス張りで、すごいなみたいなそういうメリハリのある空間作りっていうのも大切なのかなと感じました。

- (委員) この構想を実現するためには、公的な施設を学校に入れるというご意見があったと思うんですがそれをやるのであれば、我々保護者としては、学校教育に必要な施設をただでさえ敷地が狭いという中でそういう公的な施設を入れちゃうとまた狭くなってくるんじゃないかという懸念があります。広大な敷地があるのであれば、そういうことは可能なのかなとは思いますが、この限られた敷地内ですから学校施設として入れたいものをしっかり入れていただきたいと思っております。また、その社会教育的な部分っていうのは社会教育委員や我々PTAがですね、地域とのつながりというものもしっかりと取り組んでいけばそこにわざわざ公的な施設を入れ込まなくても人と人とのつながりは人が作ると思っておりますので、そういった意味でそれは田尻で実現できるのではないかなというふうには思っています。
- (委員) それは程度の問題かなと思ってね、おっしゃってるのも全面的に入れるかちょっと入れるかその程度の問題は当然あってですね、当然狭い敷地の中で限られるということその辺はその設計の中で、どの程度猶予が出てくるかというところを見極めた上で設計をしてもらったらいいかなと思ってます。全くないというのもちょっと寂しいということで日常的に触れられる空間はね、多少なりとも必要かなという気はします。程度の問題で許せる限り空間が作っていただいたら、より交流が深まると思います。そういう施設がちょっとでもあるだけでもね有効に活用できるのではないかなというのが1つあります。田尻の特色を生かすということで他の施設から子どもたちに寄ってもらうことで地域連携できるわけです。田んぼで田植え体験もしていますが、学校に田植えを持ってくるわけにはいかないの、近距離凝縮してある特色を生かして地域連携というものをイメージした地域社会との連携の仕組みづくりというのが大事かなと思ってます。
- (委員) 中学校としたらやっぱり学習が中心になってくるかと思うんですけども、その中で音が漏れにくいといった工夫など、テストの時とかそういうところはやはり気にはなります。日々学校で過ごしながら、廊下がもうちょっと広がったらいいなって思ったり、教室もうちょっと広がったらいいなと思うんですけど、あんまり広すぎてもどうなのかなと思うので、程よい感じと言いますかそれも感覚的なものですけども程よい感じの広さっていうのは自分の感覚かわからないですけど大きければいいじゃなくて、もうちょっと広がったらすごくもうちょっと便利になるよねっていうようなところの加減がいいのかなって思ったりしますので、何もかも大きくなくてもいいかなと思います。むしろ教室のクラスのまとまり感じられる広さというのも中学生にしたらいかなという感じが

しています。それから最近すごく思うんですけどやっぱり中学生は学習のどこでつまづいたのかなっていうのをやって思ってみたらやっぱり小学校低学年かなと思ったり、でもよく聞いてたらやっぱりエンゼルさんの集団でみんなで遊べるとか、それから教科書がないところでの遊びって言うんですかねそういうようなところでエンゼルの先生がいろいろ日々ご苦労されてると思うんですけど、そうところからのこの流れはすごく大事かなと思っています。保護者の方もそうかなと思うんです。やっぱり0歳児の子が15歳でこうなるんだというところを予測できるのは大事だと思います。特に中2中3で今からある程度挽回はできるんですけど、でもそんなしんどい思いせんでもやっぱりエンゼルさん、小学校低学年からきちっと漏れなく見ていってあげたいなっていう感じはすごくあるので、そういう意味ではぜひエンゼルさんをいい位置でお昼寝とか日々の生活に問題なく過ごせるような場所に置いて、将来の見通しが立てられる施設になったら素敵だなと思います。

(委員) 今年認定こども園になり、今までも一元化してたんですけども、まずこの町の0歳から15歳までの一貫教育になる先を見通して、まずはエンゼルからっていう思いで私たちは一つになったって自分は思ってます。250人の子どもたちがいて、きょうだいの転居以外はほぼ100%小学校に上がっていくという状態の中で、各校種のねらいや学年で押さえとかなないといけない学習のカリキュラムを達成に向けて取り組んでいると思います。じゃあ田尻町のこの1校園ずつの特徴というか田尻ならではの何なんやろうって考えた時に、どこの市町村でもされてる計画的な交流っていうのは離れていても計画さえすれば今までもやってきたし、これからもやっていくことはできると思います。この期待される効果のところの最初の文に、学校園が同一施設内に入ることによっていうところがまず書かれているということは、エンゼル小学校中学校の子どもたちが存在を感じられるような距離感でいることが大事なんじゃないかと感じています。見えるとか触れるとか声かけられるとか感じられるっていうその空気感を子どもたちや教職員が感じられたら、予め計画されたものじゃない自然発生的に生まれる関わりをしていくことが心を育てるじゃないけど見えないものを育てていくことにつながっていくんじゃないかなと思っています。成長や憧れと書かれていますが、下の子が上の子を見て憧れていくっていうのはすごく分かりやすい憧れの姿だと思いますし、中学生が小学生やエンゼルの子を見て感じてくれる交流で先生たちが教えてくれるその効果というのを私は聞くだけで、エンゼルの子どもの存在が活かされた場面があったんだと感じとても嬉しく思います。エンゼルの子どもは小さいから自分の存在感があったんだって思ってるかどうかは小さすぎて言葉では言わないしわからないけれども、そばにいる私たち大人がそう言ってもらえることを感じることで、子どもを見る目が変わる、周りの保護者や先生たちの目の前で見ている子どもへの関わりが変わっていく、それが循環して子どもも大事にするじゃないけれどもみんながこの目指す子ども像の「自分の価値を見出す」というところに繋がっていくんじゃないかなっていうのは感じています。今0から5まで1つの施設でいますけれども、それでもかなりの刺激になっています。そこにあと9年も足すことができたら、憧れる先や振り返って可愛いなって思える先は1年後に思う人もおるし5年先のことをイメージする子もいるだろうし、幅が広がるというかなんかそんな風になっていけばいいのかなって思っています。具体的な話として、中学校が8月にエンゼル行きたいんですよって言ってきてくれたんですよ。本当に準備も構えることもなく、ちょっと一冊の絵本を持ってきてくれて子どもたちに読み聞かせをしてくれました。めっちゃ楽しかった先生また来たいわって言ってきて帰ってくれました。後日、その子と道ですれ違い、顔を覚えていたのでまた来てねって私が声をかけたら、私の顔見て反応してくれてまた行くわという言葉では言ってくれなかったですけど表情が語ってくれたみたいなことがありましたので、なんかそんな関係性が日常的

に行うことで心を育ててるっていうんじゃないかなと思っています。

(委員) 視察紹介を見させていただいて私が単純に思ったのはこれオーバースペックだろうということですね。この人数に対してこの広さっていうのは、先々のことを考えるとこれから子どもの数が減っていくっていう中で考えて、あの建物を維持するっていうのもすごく費用もかかるだろうとも考えると、今の時代にあってないんじゃないかなと思います。物理的な広さは田尻町にないっていうのはもちろんなんですけども、まあ広ければいいでもないだろうかなと思って、先ほどの話にもありましたけども、狭いから子ども同士の距離が近くなって交流が生まれるということもあるでしょうし、狭いなりに工夫して使うっていうのもある意味教育にもつながってくると思うので、別にあのような施設を目標にとか全面的に取り入れるもんでもないのかなっていう思いました。規模については以上です。あとこちらの資料のですね、期待される効果のたじり一貫教育が進むことっていうところで、上の4つはそうなんだろうなっていうふう思うんですけども、最後の地域活性化っていうところは一貫教育が進むことで別に活性化が進むんじゃないだろうなというふうに思って、ちょっとここは毛色が違ってですね、先ほども話がありましたけども田尻町の特色を生かして強化して取り組んでいきたいことなのかなと思います。書きぶりとしたらこれは分けてもいいのかなと思いますし、地域活性化だから先ほどグローバルっていう話もありますけども、地域のコミュニティスクールとかもちろんなんですけども、全体的にグローバルというところがあんまり出てきてないのかなと感じました。私が空港を経営してる会社にいるから言うわけではないんですけども、せっかく対岸にも国際空港はありますし、そういうのも田尻町の特色一つかと思しますので、そういうのも前面に出して行っていただければいいんじゃないかなというふうに思います。

(委員) 中3の息子がいるんですけど最近よく3人、4人、5人って友だちが来てくれてて、そこに一番下の小学校3年生の子が遊びに入るんです。でもみんな嫌な顔一つせずに教えてくれるというのをよく見ます。そういうのが学校生活で見られるようになるんだらうかなと思ったらすごくいいと思います。上手に教える子もいたら、歳が離れてる子に対して声のかけ方がわからない子もいると思うので、そういうのが常に学校生活が行われてるんであれば、年の差があっても接し方とか話し方っていうのは学んでいけるんだらうなっていうのはすてきだと思います。基本構想については、先生たちが働きやすい環境整備なども書かれているが、先生たちへの期待の大きさを感じます。逆にこれだけいいものをつくるのだから、先生たちはもっとがんばらないといけないというようにプレッシャーも大きいなと感じたので、保護者としては少し心配になりました。また、PTAに関するものがほとんどないので、自分たちの立ち位置はどうなるのが気になりました。

(委員) 3年生の子が土曜日によくTDFに行かせてもらっています。そこで地域の年配の方が見守ってくれているのか一緒に遊んでくれるのかはわかりませんが、この前たまたま盆踊りに行った時にその方から声をかけてもらっているのを見て、しかも何人かそういう人がいて、私の知らないところで自分の子どもがその地域の方々にお世話になってると思うとすごい嬉しかったです。少し話は変わりますが、中一の息子が席替えして幼稚園側の席になったっていうのを聞き、窓開けたらエンゼルにいる妹が運動会の練習している様子が見えたらしく、家で練習してたねっていう話してくれたりして、そういうのを見てると中1で少し反抗期みたいになってきてるんですけど、そういうやりとりが自然と生まれる環境ができるのはいいかなと思いました。今朝の話なんですけど一番下の幼稚園の子が中1の上の子が出かける時に待って一っつ寄って行って、タッチグーしてって言うんです。上の子は普段私にやったらいやな感じを出したりするんですけど、隠れて見てたら多分嫌がるやろかなと思ったんですけど、ちゃんとやってあげてるのを見て、そういうのもまた学校で兄弟

同士が回ったりしたらパッと普通に会ったりしてちょっとでも触れ合いとかがあったりするのならいいなって思いました。

(会 長) 本日皆様からいただきました意見としましては様々なことがあったと思います。基本構想について言えば、委員の方から地域との連携、特に田尻町の地理的な特定できたものを生かした地域との連携のあり方っていったものをもう少しこの構想の中に含めても良いのではないかという意味のご意見があったかなと思いますし、委員の方からはグローバルな視点をもう少し盛り込んでもらった方がいいのではないかというご意見があったと思います。と同時に、今回この基本構想を出していただきまして、この中で改めて会員の中で共有できたこととしましては、関わりの大切さ、その部分を共有できたのではないのかなと思いますし、特に一貫教育の中で同じ敷地内あるいは同じその建物の中に0歳から15歳までの子どもたちが通い、かつそこに地域との人たちも何らかの接点を持って入ってくることになると、お話の中で出ていたようにソフト面で計画的にそういう交流を図るということだけではなく、日常的に交流が生まれるのではないので、先ほど例えば手洗い場であったりとかトイレであったりとかですね、そういう風な日常的な時空間の中で交流っていったことが行えるのではないかというご意見があったと思います。私もそれはすごくこの一貫教育の中で期待できることなのではないのかなと思いますし、それが非常に大きな教育効果を持つのではないのかなというのは非常に期待するところです。おそらくそれは子どもたち同士っていうことも委員の皆さんが指摘された中であつたことだと思いますけれども、その他の働いている先生方の方でもここでは委員のように目の前で見てた子どもが身近なところで15歳に成長していく姿を見れるっていうのは、すごくいいことだと思いますし、中学校の先生方もその小さい時の0歳とか1歳とか2歳の成長してくる子どもたちの以前の姿を知っているというのはすごく大きいので、そのような日常的な交流をできるような施設のあり方といったものを考えていくというのが共有できたと同時に、今後の基本計画とか基本設計に向けての一つの課題になってくると思いました。また、先ほどオーバースペックではないかというお話もあつたように、他の委員からも広ければいいっていうものではないというお話もありました。その程良い空間の広さや空間の使い方を将来50年後60年後っていうことを見据えた施設設備のあり方などを今後の基本計画基本設計の中で特に設計していただける設計士、設計事務所なんかと打ち合わせ等を積み重ねていく必要があるのではないのかなと思いました。今日のこの委員会での意見を踏まえて、今後ともこの事務局教育委員会の方でご検討いただければなと思います。

④教育長さいさつ

馬野教育長より、閉会のあいさつを行いました。

⑤その他

澤谷一貫教育推進課長より、事務連絡を行いました。